



冬期間の鳥獣被害対策



福島県農林水産部農業振興課

冬期間は、未利用果樹、野菜や生ゴミなど人間には不要となったものが野生鳥獣にとっては魅力のある餌になります。早期に処理しましょう。

また、収穫が終わったほ場では、電気さくのワイヤーは撤去しましょう。撤去しない場合は、農作物がなくても通電を継続してください（獣が学習し、電気さくを恐れなくなります）。

1 未利用果樹や生ゴミの適正な処理

自家用として植栽しているカキやクリ等は、近年、十分に管理されていないことが多く、残った果実は野生鳥獣を呼び寄せてしまいます。集落周りに自生する野生のクリやクルミなども同様です。不要な樹木は可能な限り伐採しましょう。

また、生ゴミも野生鳥獣にとっては魅力ある食べ物です。生ゴミを容易に食べることができれば野生鳥獣は集落周りに住み続けます。生ゴミ、収穫残渣等は穴を掘って埋め、無造作に捨てることはやめましょう。

2 収穫後の電気さくの管理

収穫後のほ場では、獣の慣れを防ぐため電気さくのワイヤーは撤去しましょう。

電気さくは獣が電気ショックを経験することにより、その痛みから柵周辺に近づかなくする心理柵です。通電しないまま設置していると、電気ショックを感じないため獣は電気さくを恐れなくなります。

積雪のない中通りや浜通りでは、作物の収穫後、電気さくがそのまま設置されていることがよく見受けられます。作付けのない時期にワイヤーを撤去しない場合は、通電を継続し獣が近づかないようにすることが必要です。



3 ハウスにおける被害対策

冬期間には、ハウス内でハクビシンによる被害が見られます。ハクビシンは夜行性で、甘いものが大好きです。中でもイチゴは好物です。ハクビシンがハウス内に侵入するパターンは次の3つがよく見受けられますので、良く点検し侵入を防止しましょう。

①地面との隙間から

ハクビシンの頭骨の高さは6 cm以下で、5～6 cm程度の隙間があれば侵入できます。出入口をはじめ小さな隙間をよく点検して隙間をなくしましょう。

②ビニールを破いて

ビニールに小さな穴が開いていたり、たるみがあるとハクビシンは噛んで侵入できる大きさに破きます。ビニールは破れを補修するとともに、たるみなく張りましょう。

③天窓や換気扇から

ハクビシンは登ることが得意なことから、天窓や換気扇の隙間からも侵入します。天窓や換気扇周りも隙間をよく点検してください。

ハクビシンの侵入防止には、電気さく（10cm間隔で三段の電線タイプ）が有効です。また、埼玉県が開発したネットと電気さくを組み合わせた侵入防止策「楽らくんライト」（<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0909/shin-choujuugai.html>）も効果の高い対策です。

なお、ハクビシンなどの中型獣は、廃屋や神社仏閣、住宅や倉庫の屋根裏、野積みされた樹木などの中を寝屋としていることが多いので、ほ場周辺にそれらがある場合は注意が必要です。

＝ 今年度の鳥獣被害防止の取組を振り返り、次年度の対策改善へ！ ＝

鳥獣被害対策では、集落（地域）ごとに課題を整理し、集落ぐるみで対策の三本柱「①被害防除（集落・農地管理） ②生息環境管理 ③有害捕獲」をバランスよく実施することが重要となります。

そこで、今年度の取組と結果について、集落の代表や住民、行政機関、専門家等が一緒に振り返ってみましょう。

これまでの対策の効果を点検、課題を抽出、その課題解決について、住民、集落・地域（集団）、行政機関等（捕獲隊含む）がどのように関わっていかなければならないか話し合い、それぞれの役割分担を明確にし、次年度における被害対策の改善につなげましょう。



発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7344

○農業振興課ホームページ：以下のURLより他の農業技術情報（生育情報、気象災害対策、果樹情報、特別情報）をご覧ください。

URL：<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>

○以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>